

六組 七場面

作者は、父親を帰らせるためとどれだけ父親が家族と一緒にいたいかを強調するために、男車掌を登場させた。

田中君

作者は、主人公と父親が別れるのが寂しいし、父親と主人公がいつまでもしゃべっているから、その話を終わらせようとして、男車掌を登場させた。

奥田さん

作者は、父親と主人公の間で話していて、何か言おうとしているところで男車掌が登場させることによって、父親と主人公を現実に戻し、父親と主人公の別れを悲しげにしている。

炭竈君

作者は、父親と主人公の別れをより引き立たせるために、男車掌をあえて最後に登場させ、父親と主人公の別れはとて長くても惜しいことと読者に伝えなかった。

武井さん

作者は、父親と主人公の別れの悲しみをより強く表すために、男車掌を、親子の悪役として登場させた。

河村さん

作者は、父親と主人公と一緒にいたいという気持ちと、働きに行かなければいけないという現実を、男車掌を登場させて表現した。

高井君

作者は、親子愛を遮るように父親の言葉を遮る悪役の男車掌を登場させ、現実に戻すことで、別れることの切なさをいつそう強く表現した。

杉山さん

作者は、父親と主人公の幸せな時を厳しい現実に戻すために男車掌を登場させ、親子の切ない気持ちを表そうとした。

竹中君

作者は、そのまま会話がすすむと東京に帰りたくなったりするので、その話を終わらせる的感覚を男車掌で表そうとしたから、登場させた。

中野君